

新年度に向けての会議等

4月 5日(金) 監査会：14時から・・・田和山館にて(当日は作業なし)

役員会：15時から・・・乃木公民館にて

20日(土) 総会：16時から・・・同上、 終了後懇親会

5月12日(日) キンランを楽しむ会・・・10時から12時まで



里山と自然学習の森

「随想」



「里山学入門」のカバー紙

「里山を育てる会」発足の翌年(平成15年)、会員研修として庄原市比和町の自然科学博物館に中村慎吾館長(農学博士)を訪ねた。林業について全くの門外漢であった私は、この時初めて「里山」の話聞くことができた。講義の後、中村館長が中心となって進めておられたセツブンソウの保護地総領町に案内してもらい、里山づくりの実態を見学した。

この時聞いた里山の話は、先生の著書「里山学入門」^①に詳しく述べられている。当時から、里山という言葉が流行語のように急速に使われるようになっていた。その頃の「里山」と、今言われている「里山」ではかなり違った使われ方になっているように思われる。いずれにしろ、田和山は里山であり、この山にありそうにない樹木や草花を増やすことが無いよう配慮しながら取り組んできた。

反面、この山は私たちが整備を始める以前から松江市の「自然学習の森」に指定されており、そのため、子ども達や一般市民が、身近にある山として、多くのいろんな草木にふれることができるように考えながら整備してきた。特に乃木小学校の子ども達は、毎年田和山にやってきて、草花や昆虫、樹木の観察、作業体験などの学習を行っている。その支援をしながら、より良い学習の場になるように環境整備を行ってきた。ところが、昨年より学習内容が変わってきて、総合的学習の時間も英語学習の導入などで、今までのような時間の確保ができなくなってきた。今後は、授業以外でも幅広く子供たちを呼び込み、田和山の自然にふれさせる機会をつくる必要がある。

里山として、自然学習の森として、多くの人を訪れ、親しまれる山になるよう一層の工夫が求められる。また、小さい森ではあるが本来の里山として、人とのつながりを大事にしながら、この山が利益を生み出すような施策も必要であり、難しいことではあるが、それが活動の継続につながると思う。

① 著書：中村慎吾 発行：花を華にする会 (H14.5 発行)

石井記

新年会賑やかに開く

去る1月25日、乃木公民館で新年会を開きました。この日は午前中作業を行い、午後4時から始めました。これより先、1時30分から女性群を中心に(男性2名)準備が始まり、盛り沢山のご馳走ができあがりしました。これを肴に、飲み且つ語って盛り上がり、時間をオーバーして終わりました。今後の活動のエネルギーになったと思います。

・・・今後の作業予定・・・

2月8日(金) 13:30～、16日(土) 9:00～、22日(金) 13:30～

3月1日(金) 13:30～、8日(金) 13:30～、16日(土) 9:00～

22日(金) 13:30～、29日(金) 13:30～、4月5日(金) 作業なし

4月12日(金) 13:30～、20日(土) 作業なし、26日(金) 13:30～



まき割り